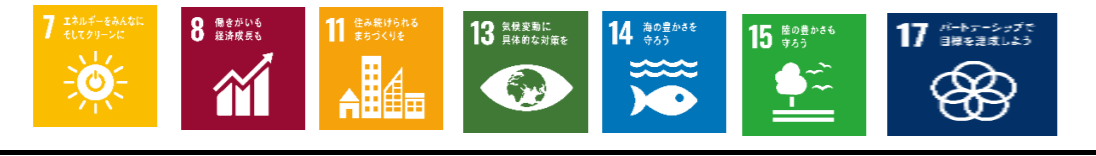


総合戦略効果検証評価表		事業実施年度：令和5年度		第2期総合戦略期間（令和4年度～令和8年度）			
関連するSDGsゴール							
基本目標2							
<p>パワースポット宮の力の源としての農業と各種産業の拡大</p> <p>■人口減少の抑制のため働く場の確保が求められています。農業、商工業、飲食業など本町の特徴的な産業にかかる中小事業者の支援、および外国人や女性、非正規雇用者、高齢者など様々な立場の人々が活躍できる場の創出を通じて、強い産業の実現とあらゆる人々が活躍できる環境づくりを行います。</p>							
事業名	事業内容	R4			R5		
		内容・実績	今後の課題・対策	評価	内容・実績	今後の課題・対策	評価
①農林業の振興 (産業観光課)	持続可能な農業の実現に向け新規就農者の育成と担い手確保を行い安定した収益を上げられるよう支援するとともに生産規模を拡大したい農家を支援します。	新規就農者については、長生農業独立支援センター等と連携を強め、1名（ネギ）の就農確保を行いました。また、安定経営に向け、地方創生臨時交付金を活用した支援や「強い農業・担い手づくり総合支援交付金」等を活用し、サポート体制を拡充しました。	令和5年度の新規就農者は、4名を予定しており、この確保とサポート充実が課題です。農地提供や営農開始後の体制を関係各所と連携を密にとり、対策を図ってまいります。	B	新規就農者については、長生農業独立支援センター等と連携を強め、4名（長ネギ2名、梨1名、多品目1名）の就農確保を行いました。また、安定経営に向け、「経営所得安定対策事業」や「輝け！ちばの園芸」等を活用し、サポート体制を拡充しました。	令和6年度の新規就農者は、2名を予定しておりますが、さらなる人数確保が必要となります。関係各所と連携を強化し、移住定住を含めた効果的な対策を図ってまいります。また、販路についても、農協や県、民間とも情報共有を深め、農協への出荷、直売所の活用、飲食店やネット、イベントでの販売、ふるさと納税など、多岐に渡る支援を進めます。	A
②先端技術を導入した農業の実現 (産業観光課)	ドローンを活用した病害虫の防除や生育管理、ICTを活用した養液栽培や環境装置などの先端技術の導入によってスマート農業を推進し、作業効率化や省力化を図り、高品質な農産物の安定生産を推進します。	ドローン散布導入の検討を行い、適時適切な時期において、より効果的な防除が可能であったため、次年度から実施します。また、ICTについては、GPS付農業用機械(2件)及びハウス温度管理システム(1件)の導入を行いました。	ドローン散布や農業をより安全性の高い非ネオニコチノイド系に変更することに伴い、効果や散布時期の周知が課題であるが、広報やHP及び農家組合長などへの説明を丁寧に行い対応していきます。	B	水稲防除において、ドローン散布を導入し、生育状況に合わせた時期に農業散布が可能となりました。また、農業においても非ネオニコチノイド系を使用しました。効果的に散布したことにより、病害虫被害の減少に寄与しました。散布面積については、143.5haとなりました。	令和6年度は、農家へのICT導入補助制度を拡充することが出来たので、その周知を行います。また、ICT機械等の効果的な使用について、ほ場整備などの検討を行います。	A
③魅力あるまちづくりを目指した統一景観形成 (都市環境課)	町の特徴を活かした統一の街並みを形成するために、統一景観形成に資するリフォームに対する個別の財政的補助や他の自治体の先進的な施策の導入を検討します。	令和8年度までの景観計画の策定、景観条例制定に向けて先事例の情報収集、調査を進めています。	計画策定に向け、検討委員会の立ち上げ、事業者の選定を進めています。	B	景観計画の策定、景観条例制定に向けて情報収集、調査を引き続き進めています。	景観計画策定にあたり関連計画となる、町都市計画マスタープランや、立地適正化計画などの改定・策定の実施後が適当であることから、本事業の実施時期について後ろ倒しとなることが見込まれる。	B
④6次産業化の推進 (産業観光課)	地域産業活性化のため、販売ルートの拡大を支援するとともに、特産物や農産物加工品などのブランド化や農業の6次産業化への展開も視野に入れた活力ある農業の進行を図ります。	販売ルート及び6次産業商品の拡大を図るため、地方創生臨時交付金を活用し、オリンピック会場であった釣ヶ崎へ農産物等用自動販売機を設置しました。運用については、公募を行い、地元農家などで構成される「道のファーマーズ」と協定を締結しました。	農産物等用自動販売機が釣ヶ崎に設置してあることの周知、及び商品の充実と補充が課題です。SNSや各種イベントなどを活用し、周知を図るとともに、関係各所と連携を強化し、ニーズを把握し、商品提供及び開発を強化を図ります。	B	釣ヶ崎に設置した農産物等用自動販売機について、トマト、梨、米、米粉、サツマイモ、蜂蜜など多種多様な商品を提供することが出来ました。また、様々な販売ルート確保や6次産業商品のため、関係機関からの情報収集などを進めました。	販売ルートの確保について、Webサイトを活用する農家も増加していることから、相談などの継続的な支援を図り、6次産業商品について、補助事業を把握しながら、経営拡大に積極的な農家に対して、適切な支援を進めてまいります。	B
⑤自然豊かで多様性に富んだ環境保全 (産業観光課・都市環境課)	生物多様性や恵まれた里山や海岸の景観を保全するために、森林環境譲与税を活用した里山整備を進めるとともに、住民による環境保全の活動を推進し、生物多様性戦略の策定をめざします。	生物多様性戦略を策定すべく有識者等との協議を行い、R4.11/14 職員研修会を実施し理解を深めました。また、森林環境譲与税を活用し、洞庭湖周辺の森林整備を行い、また、同税に基づいた市町村間連携の協定を令和5年度市川市と締結するための協議を進めました。また、海岸景観創造のため、千葉県緑化推進委員会の事業を活用し、海岸にヤンの木を植樹しました。	生物多様性戦略の策定については、森里川海共生ネットワーク主催の語る会等での意見を反映し、有識者など関係者と協議し策定に取り組んでいきます。森林整備に関しては、優先順位を定め、継続的かつ効果的に整備を行い、人流を増加させることが課題です。住民団体や専門家と協議を重ねるとともに、市川市との連携を深め、適切な整備を進めてまいります。	B	生物文化多様性計画の策定に向けて素案づくりに取り組みました。引き続き、森林環境譲与税を活用し、洞庭湖周辺の森林整備を行いました。また、同税に基づいた市川市との協定を締結し、この協定に基づき、憩いの森の整備を行い、エリアの包括的な里山整備を推進しました。	生物文化多様性計画に係る策定委員会の立ち上げ、策定作業に向けた取り組みを進めてまいります。森林整備に関しては、継続的な住民協働及び人流増加が課題です。住民団体と連携を強化しながら、草刈りなどの整備を推進します。また、市川市などとの協議を深め、イベントなどを通して、人流増加を図ってまいります。	B
重要業績評価指標（KPI）	現状値	目標値	R4実績値	R5	R6実績値	R7実績値	
農業経営体数	258 経営体 (令和2年度)	265 経営体	実施予定 (2025農林業センサス)	実施予定 (2025農林業センサス)			
住みやすいと思う町民の割合	67.7% (令和3年度)	73%	—	—			
景観計画の策定	—	策定	未策定	未策定			
生物多様性戦略の策定	—	策定	未策定	素案まで完成			

評価  
A:計画以上に進捗しており、継続して推進する。  
B:ほぼ計画どおり進捗しており、このまま継続して推進する。  
C:目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの要否を検討する。  
D:目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する。

I 町民生活の向上に力強い町づくりのためには